

パックご飯 米国輸出

ウーケ 入善に第4工場完成



完成し、稼働を始めたウーケ第4工場＝入善町下飯野

第4工場は2024年7月に着工した。鉄骨2階建てで、延べ床約4243平方メートル。投資額は約64億円。ウーケは、県産を含む国産米と黒部川扇状地の天然水を使った無菌包装米飯

を24時間体制で製造。無添加の商品として、アジアや欧州などの約20カ国へ輸出している。ただ、米国向けは、米国食品医薬品局（FDA）の認証をクリアするため酸味料を入れる設備を

海外向け12倍 600万食

パックご飯の製造、販売を手がけるウーケが入善町下飯野の同社敷地内で建設していた第4工場が完成した。米国への輸出に必要な規格を満たす生産ラインを整備

し、1日から稼働。同社として米国輸出は初めてとなる。海外向けとしては、2027年度にこれまでの約12倍となる600万食の生産を目指す。（上田友香）



竣工式に出席した（左から）花畑社長、新田知事、藤尾社長

「購入しやすい価格で」 親会社神明HDの藤尾社長

導入する必要があり、これまで輸出できていなかった。第4工場では、1〜3工場と同規模の年間約4千万食を製造可能で、全体で年

ウーケの親会社で、コメ卸最大手・神明ホールディングス（神戸市）の藤尾益雄社長が、竣工式後に取材に応じた。パックご飯の価格について「1食200円を超え、消費者の購入しやすい価格帯から外れてきている。（自社商品は）価格

間約1億6千万食となる。これまで年間50万食だった輸出分を、27年度までに大幅に増やすため、約40人の新たな雇用も見込んでいる。

竣工式が22日、現地であり、新田八朗知事や笹島春人町長ら約100人が出席。花畑佳史社長は「国内だけでなく海外輸出への設備を強化した。入善から日本、世界へコメを届けていく」とあいさつした。

面で踏ん張り、消費者を大切にしたい」と語った。

ウーケの初めての工場が完成した2009年に約10万トだった国内のパックご飯製造量は、10年ほどの間で約2倍に増えたという。市場は右肩上がりだったものの「25年産のコメを使い始めたころから、各メーカーで値上げが進み始めた」と指摘。米価高騰が背景にあり、別の大手メーカーの商品は1年間で3度の値上げを発表した。

米価高騰によるコメ離れがこれ以上進まないよう、需要喚起が欠かせないとし、「パックご飯や、コンビニで販売するおにぎりなどを通じて消費を拡大していきたい」と話した。